

アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第31号

平成18年 8月1日発行



府県制施行第1回沖縄県会議員(明治42年7月) 於:県会議事堂(俟徳館)

他府県では、1890年(明治23)に府県制が公布されましたが、沖縄では1909年(明治42)4月、府県制特例が公布されました。第1回沖縄県会議員選挙は同年5月に執行され、二区五郡から30人の県会議員が県民の代表として選出されました。この写真は、日比重明知事や県会議長の高嶺朝教など第1回沖縄県会議員らの記念写真です。写真右上に5月と筆書きされていますが、裏面には7月と書かれ、第1回臨時県会は6月28日から7月4日に開催されているので、裏面の記録の方があっているようです。



新館長にきく

この四月、沖縄県公文書館館長として伊波謙前総務部総務統括監が着任しました。今後の公文書館運営について聞きました。

Q1 公文書館運営にあたって、どのように現状をみておられますか？

沖縄県の行財政はたいへん厳しい状況にあります。行政事務の効率化のために、さまざまな工夫がなされていますが、指定管理者制度の導入もそのひとつです。公文書館でも、その機能を損なうことなく、管理運営を指定管理者制度にソフトウェア・ハードウェアの両面で必要だと考えています。

Q2 公文書館の機能とはどのようなものとお考えですか？

県から公文書館に引き渡される文書を、ルールに基づいて評価・選別し、整理して公開していくことです。県行政の歩みを跡づける資料を保存し、県民のみならず、社会的・文化的なDNAが受け継がれるのだと思います。

Q3 これからの公文書館像について、どのようなビジョンをお持ちでしょうか？

県の機関は膨大な量の文書を生み出しています。この中から将来の県民のために保存すべき文書を評価・選別し、保存していくことは重要な意味を持ちます。しかし県行政の現場では、一般の職員が歴史的価値なども勘案して保存すべき文書を選定することは困難です。また業務に追われてそのような時間的余裕も

ないのが現状です。

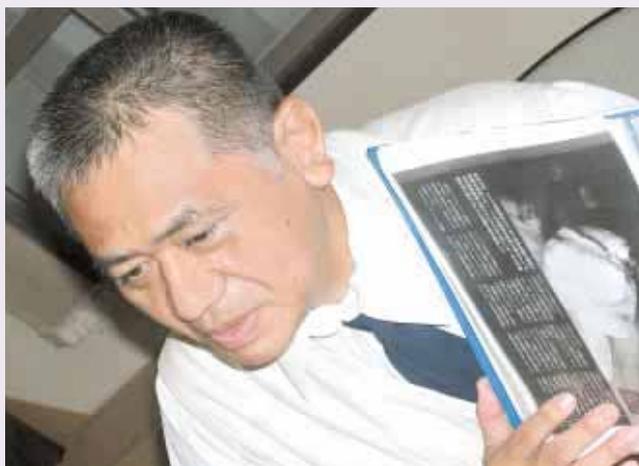
保存すべき文書の評価選別は、専門性を有する公文書館管理者に集中的に委ねるのが望ましいでしょう。そこに公文書館の存在意義があるのでしようし、それを効果的に実施して県行政の説明責任を保障する公文書館を目指す必要があると考えます。

Q4 評価・選別と同じように重要な公文書館の機能に、文書の公開がありますか？

その通りです。公文書館で文書を公開することは知る権利に応えるために必要ですが、同時に、プライバシー等の権利の侵害がないように十分に配慮しなければなりません。ルールに則ってこの調整を行うことも、専門性を有する公文書館管理者に任せることになりました。その場合、委託者である県において明確な公開基準を示していくことが前提です。

Q5 プライベートなことをお尋ねしますが、統計に関心をお持ちでしょうか？

はい。特に、一九五〇年にUSCAR（琉球列島米国民政府）の下で実施された国勢調査があります。それにとりまとめられたデータは、まだ分析を要する点が多くあるようです。この国勢調査報告を市町村毎に完全な形でとりまとめたいというのが願いですね。



資料ファイルを手説明する岡村俊夫さん

この人にききました ～利用者の声

公文書館資料はさまざまな方法で利用されています。沖縄戦をテーマに、公文書館で長く平和学習を続けていらっしゃる方の中から、岡村俊夫さんにお話をうかがいました。

真資料が豊富で、キャッシュの原文も示しているのがいいですね。

実感のこもった案内ですから、観光客の方も喜んでくれるでしょうね。

ありがたいことに、お礼の手紙をいただくこともしょっちゅうです。その中に知るは楽しみなりと書いてくださった方があって、私もまさに同感です。公文書館で自分なりに学んでそのことを実感します。公文書の記述は信頼できますし、新しい発見がたくさんありますよ。

公文書資料の特長は、どんなところにあると思いますか？

本人訴訟をした時に、公文書の開示請求をして入手した資料を証拠として提出した経験があります。過去の事実を立証するのに、公文書はもっとも重要な資料として採用されることがよくわかりました。だからこそ、公文書館で公文書を公開してくれるのは大事なことだと思います。

公文書館は沖縄戦に関する資料を今後も公開していきます。これから公文書館資料を活用してください。ありがとうございます。

岡村さんはタクシー会社に勤務員としてお務めですが、沖縄戦に関心をもったきっかけは何でしたか？

夜勤から昼勤になって、観光客の方をご案内することが増えました。でも、ひめゆりの塔に連れて行ったお客さんから質問されても、何も答えられなくて恥ずかしい思いをすることがよくあって…。それで沖縄の歴史を勉強する気になりました。ちょうどその頃公文書館が開館して、自宅から近くて便利ですのでよく通うようになりました。

公文書館資料は、岡村さんのライフワークにどんな風に役立っていますか？

沖縄戦についていろいろな本を読むようになったのですが、公文書館では本や論文ではなくて、原文書で事実を確かめられることが魅力です。たとえば戦闘のあった場所などを自分でたどってみると、本に書いてあることはどうも感覚的に一致しないことがありました。それで、公文書館で閲覧できる米軍戦史の原本を確かめてみると、それには自分がここではないかと思った場所がその通り記録されていたんですね。だから自信をもって観光客に説明ができます。英語は不得手ですが、公文書館の職員の方がいろいろ教えてくれたり、地図で正確な地点を割り出してくれて誠にありがたうございました。また、写



組織文書の評価・選別に

どう取り組むか 大学図書館関係者との意見交換

三月十三日、大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究研究会(研究代表者/西山伸・京都大学 大学文書館助教授)が公文書館を訪れ、意見交換会が開催されました。

意見交換会では、大学図書館関係者にとっても、大学運営の営みの軌跡を後世に伝えていくために、大学という組織が作成・収受する文書をどのように評価・選別していくかが課題となっているという報告がありました。研究会の十二人の参加者

のみなさんは、公文書館の公文書専門員から、沖縄県の行政文書の評価・選別の概要と課題について説明を受け、評価・選別作業も実習していただきました。

参加者から活発な質疑が出され、自治体と大学という違いはありますが、重要な業務記録の保存と公開という役割において公文書館・文書館が果たすべき役割を、お互いが再認識するよい機会となりました。



評価・選別作業実習

公文書館からの概要説明



沖縄県公文書館友の会総会

六月三日、沖縄県公文書館友の会の平成十八年度総会が、公文書館講堂で開催されました。総会に先立って、沖縄戦関連映像資料の上映会があり、友の会評議員である玉城朋彦さんが解説をしてくださいました。会員のみなさんから、撮影された場所についての情報が提供され、また、公文書館の沖縄戦関連資料の収集に期待する声も頂戴しました。

友の会では、勉強会や歴史巡検ツアーを計画するほか、公文書館事業へのボランティアとしての参加協力を呼びかけています。詳細は友の会事務局(公文書館内・電話八八八・三八七五)までお問い合わせください。

沖縄県新採用職員施設見学



四月十一日、七三人のフレッシュな新採用職員が、研修の一環として公文書館を見学しました。伊波謙館長のあいさつ、県職員向けのアーカイブズ講座(上映、豊見山和美(財)沖縄県文化振興会公文書専門員から、県文書の保存管理)についての説明、修復の様子も含めた館内見学といった日程をこなし、重要公文書の管理について理解を深めていただきました。参加者からは、将来自分の作った文書が公文書館で公開されたら、子供といっしょに閲覧しにきたいですね。結婚もこれからですけど」という声も聞かれました。



昨年実施したバトルハイム・ツアーにて



沖縄戦関連映像資料上映会

五味武資料

平成十八年五月一日、山梨県在住の五味紀(ただし)氏より、氏の曾祖父・五味武氏の写真十一点が当館へ寄贈されました。五味氏が事務官補として着任した明治四十二年頃の沖縄県は、第八代奈良原繁知事から第九代日比重明知事に代わっており、町村制・府県制の適用が大幅に遅れていた沖縄県内でそれを問題とする発言が出はじめた時期でもあり、ようやく府県制特例が發布され、県議員選挙などが行われました。五味氏は第十代高橋琢也知事、第十一代大味久五郎知事と三代の知事に任されました。沖縄滞在中、府県制度や初の県議員選挙の執行に関わ

るなど、制度の普及を図るため県内各地を奔走しています。

役人としての経験や年齢的にも充実していた四二歳から四七歳という時期に沖縄の行政に携わった五味氏は、写真に撮影の年月日や写っている人々の職氏名などを詳細に記述しています。この氏の配慮が私達に多くの情報を与えてくれます。

これらの写真資料は、那覇市の歴史研究家野々村孝男氏の長年にわたる調査の中で探しだされ、同氏の協力のおかげで寄贈されました。
(資料コード/0000065852)



事務官補・地方課長時代の五味武肖像写真

明治元年山梨県甲府市生まれ。明治42年から大正3年まで沖縄県に勤務、その間、県事務官補、地方課長、県制実施準備委員、中頭郡長などを歴任する。離県後、北海道小樽区主事、茅部郡森町町長を経て、山梨県池田村村長となる。昭和19年没。



沖縄県県制実施準備委員記念写真(明治42年3月25日)

この写真は、明治42年4月1日沖縄県制施行7日前に撮影されました。沖縄毎日新聞によると同年1月12日に河村弥三郎他14名が、3月18日には切通唐代彦や真境名安興等も委員に任命されました。当時の新聞には府県制への県民の期待が連日のように報道されており、ようやく自治の意識が芽生え始めた沖縄県制の息吹が感じられます。後方建物は、右側に掲げられた板札に「受付」午前八時半より」とあることから、当時の県庁の玄関ではないかと推察されます。



優良町村長一行本土視察中の記念写真

於：東京日比谷(大正元年8月4日)

右から島尻郡大里村長・宮平助守、国頭郡本部村長・上間徳之助、沖縄県事務官補・五味武、沖縄県属・青木直太郎、中頭郡北谷村長・知念次信、島尻郡糸満町長・上原次郎、中頭郡浦添村長・与座鉢不

内務省は、行政担当者や地方有力者及び区町村長などを選抜して県外の優良町村を視察させるなど、地方改良事業を一般に理解させる目的で様々な取組みを行いました。明治45年7月、地域の期待を担った彼らは、五味事務官補の引率で東京・宮城・長野・三重・広島を視察しています。他府県を視察した優良村長らは帰郷後、新聞に投稿したり、各地で講演会を開くなど、町村自治の振興や社会教化運動を推進しました。



第1回沖縄県地方改良講習会終了記念写真
(大正元年10月5日)

日露戦争後、明治41年10月13日発布された「戊申詔書」は、天皇制に立脚する国民道徳を強化する思想対策の一環として、華美を戒め、上下一致、勤儉力行で国富増強にあたることを強調されました。その運動を推進するため、内務省は、全国の町村行政関係者を対象に地方改良講習会を開き、模範事例の宣伝をするとともに優良団体や個人の表彰をさかんに行いました。内務省が開催する地方改良講習会に中頭郡長・朝武士干城と参加した五味事務官補は、県主催の講習会では自ら講師となっています。左の写真は、講習会終了後の記念写真で受講者には当時の各町村長が多いようです。後方の建物は、県庁敷地内にあった迎賓館「俣徳館」で、明治42年5月に改修されて、県会議事堂として使用されました。



長寿者表彰記念写真(明治44年正月4日)

当時県庁では御用始めには、90歳に達した長寿者を県庁に招いて養老式を行いました。当時の新聞によると明治44年に表彰された高齢者は32人(男4人、女28人)いたことがわかります。当日、本人が出席して表彰されたのはそのうちの8人でした。式典に参加した人々は正月の晴れ着姿で開業したばかりの沖縄電灯株式会社に招待され記念撮影を行いました。招待者4人とともに親族と思われる人々が写真に収まっています。



前中頭郡長・朝武士干城より五味武へ
事務引継終了後の記念写真(大正2年9月)

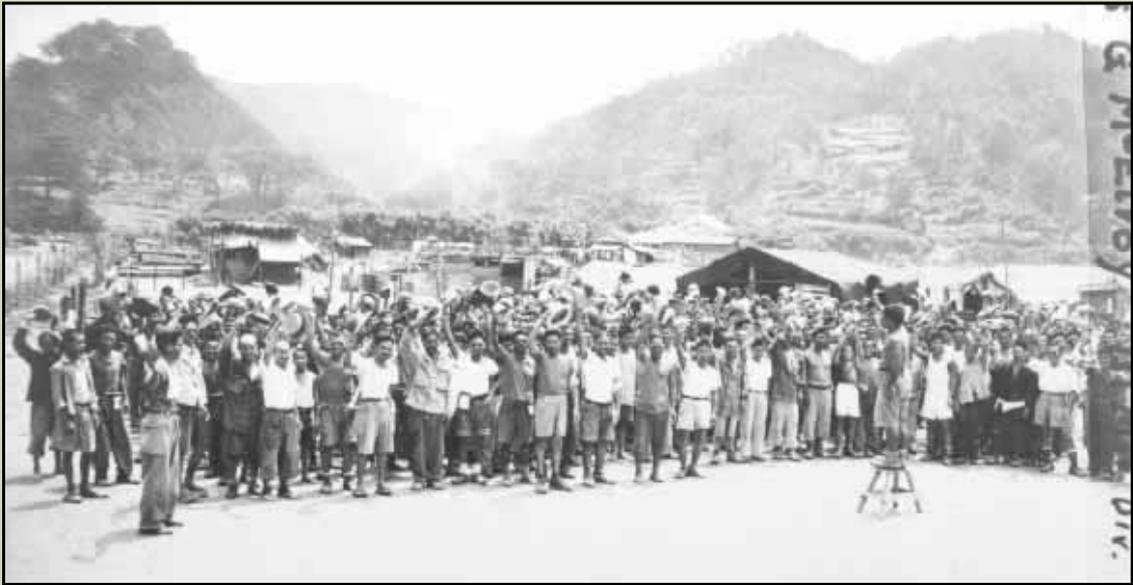
中頭郡役所は、首里区役所に隣接し同区当蔵町にありました。前任の朝武士干城(あさぶしかんじょう)は、青森県出身。明治28年、奈良原繁知事の県政下、国頭役所所長に就任し、明治29年国頭郡長となりました。明治31年には首里区長兼中頭郡長として約5年間勤めています。中央席に朝武士と並んで座っている五味氏は、当時46歳、前任者と年齢の差がかなりありますが、写真の表に書かれた説明書きに新郡長への意気込みが感じられます。

那覇港風景

那覇港が修築される以前は、船の接岸はできなかつたため、荷物の積卸しは、解船にたよっていました。明治40年に那覇港の修港が決定され、着工されたが、明治42年には国から県に引き継がれ、大正4年まで続けられました。沖に停泊している平壤丸(1,202トン)は、沖縄・大阪間を定期的に運航していた貨客船です。万国旗を掲げ、乗船客がはしけで向かっていることから出港時の写真と思われる。



あ の 日 の 沖 縄



1945年8月15日

米海兵隊写真資料14
 【米国国立公文書館から収集 写真番号133492】
 1945年8月15日
 米軍が付けたキャプションには「日本軍が降伏したことを通訳から聞き喜ぶ沖縄の地元民 Okinawan natives have been told of the Japanese surrender by their interpreter and are cheering. 」とあります。
 この写真の撮影場所などについて心当たりのある方は、公文書館までお知らせください。

一九四五年八月十五日正午、ラジオ放送で終戦の詔書を読み上げる昭和天皇の声が流れ、日本がボツダム宣言を受け入れて無条件降伏に応じることを国民に告げました。一九三一年の満州事変から続いた長い戦争が終結し、日本本土の「戦後」が始まりました。すでに沖縄では、六月下旬の日本軍第三十二軍の組織的抵抗の終結により、米軍の沖縄占領が宣言されていました。沖縄住民は収容所で生活し日本本土進攻のための基地建設に動員されていたのです。

同じ八月十五日、米軍政府は各収容所地区の住民代表を石川地区に集め、米軍の諮問機関である沖縄諮詢会を設立する方針を表明し、占領下の復興は新しい段階に入ろうとしていました。

Q&A 閲覧室

閲覧室に寄せられた問い合わせとその回答を、レファレンス記録簿からいくつかご紹介します。

Q 親族のなかで戦時中、出身地を離れた南風原で亡くなったと戸籍に記載されている女性がいまいます。看護婦として南風原に赴いたのか、またそうであればその名簿はありますか。

A 『南風原町沖縄戦災調査』に、南風原における従軍看護婦の記述があります。しかし残念ながらその名簿はないようです。

Q 昭和三二年、那覇市で町名変更等が行われたということですが、このことに関する資料はありますか。

A 琉球政府文書に、那覇市の区域変更に関する資料が四件ほどあります。

Q 戦後、米軍が作成した天気図はありますか。

A アメリカで収集した資料には、気象に関する資料がいくつかありますが、「気象図」を特定することはできませんでした。「戦闘報告書」には、気象に関する報告があり、参考になるかもしれません。

Q 新天地市場の写真はありますか。

A 琉球政府関係写真のなかにくつかがありますが、ご希望の角度で撮影されたものかどうか、実際に確認して下さい。

Q 戦後、歯科巡回診療が行われていた時期、「フライング・ドクター」と呼ばれていた歯科医師がいたと聞きました。これに関する資料はありますか。

A 『沖縄県歯科医師会史』の中に、「フライング・ドクター」に関する記述があります。米民政府厚生教育局資料や米国、琉球政府が撮影した写真資料の中にも歯科診療関連のものがあります。

A アメリカで収集した米国国務省文書の一部に、「there were approximately 170 vessels of 300,000 tons shipping sunk in the waters of the Ryukyu Military area」という記述があります。

Q 一九五〇年代に起こったスクラップブームの際、沖縄近海に三〇トンのスクラップが沈んでいた、ということを知ることがありますが、これに関するアメリカ側の資料はありますか。

業務報告

琉球政府文書の緊急保存措置事業について

前号までに述べた保存状態調査等の結果に基づき、琉球政府文書に適切かつ必要な保存措置を施すための新しい事業が始まりました。本事業は、平成十七年度から平成二十四年度までの八年間で、現段階で何らかの保存措置を要する資料を抽出し、修復やマイクログ撮影による複製資料を作成するものです。また、予防的保存の観点から、保存箱の入れ替えや保管方法の改善も図っていきます。平成十七年度の事業実績は次の通りです。

修復 全一五冊(九、〇一五枚)

保存状態調査で、「強劣化」と判定され、利用できない状態にある一七二冊のうち、マイクログ撮影済みの簿冊を除く一一九冊を本事業の対象とし、そのうち二五冊を紙修復保存工房に委託して修復しました。



修復前の一例
(写真:紙修復保存工房撮影)



修復後

マイクログ撮影 全四八六冊(二七一、六〇〇コマ)

素材調査で文字の褪色や劣化しやすい紙と判定された湿式コピー紙について、これを含む簿冊八八七冊のうち四八六冊を(有)南西マイクログに委託してマイクログ撮影しました。



図面の撮影



撮影準備の様子

保存箱の入替作業 全五、〇八五冊(五二六箱分を一、二二五箱に入れ替え)

現文書箱の素材や重量、また縦置き保管による弊害を改善するため、出納等で最も劣化する危険性が高い書架上段二段の箱の資料について、新たに弱アルカリ性ダンボール紙で特注した保存箱に入れ替えました。



入替作業の様子



入替前



入替後

今年も右記事業を引き続き実施し、琉球政府文書の保存と利用に努めていきます。

スマトラ沖地震及び津波被害を受けたアチエにおける歴史的記録文書等の保存修復研修会に赴いて



保存修復研修会の様子(アチエ州博物館にて)

回る機会がありました。地震発生からまもなく一年を迎える頃で、アチエは着実に復興しつつありました。一見すると物資も豊富で人々にも活気がありましたが、地震や津波の爪痕はなおも街中至る所に残っていました。

そして、アチエの公文書館や博物館等にも甚大な被害が出ていました。中でも、アチエ州公文書館は、海岸から三キロ離れているにもかかわらず、二メートルの波が押し寄せ、一階部分がほぼ水没。そこにあった文書類の半分は消失したそうです。残った資料は応急処置の後、土地台帳はジャカルタの国立公文書館で、それ以外の文書が現地で作成された受けていたが、写真資料は塩水をかぶったまま手つかずの状態に固まっていた。

昨年十二月十四日から十七日まで、スマトラ沖地震及び津波の最大の被災地となったインドネシアのパンダン・アチエ市で、現地の文化財保存機関で働く方々を対象にした保存修復研修会(東京外国語大学アチエ文化財被災復興事業支援室主催)が開催されました。

目的は、現場の職員に被災した文書や写真を保存修復するための知識・技術を身につけてもらうことで、日本から筆者を含めた三名とインドネシア国立公文書館職員二名が講師となり、文書の保存修復及び写真修復に関する講義や文書修復前の記録取り、糊作り、繕い・裏打ち等、実習中心の研修を行いました。四日間駆け足ではありましたが、参加者は皆さん真剣そのもので、最後まで誰一人として気を抜くことなく熱心に取り組んでくれたので、無事に終了することができました。

滞在中、一度だけ被災状況を見て

(修復士 大湾ゆかり)



アチエ州公文書館の正面



被災した写真資料

館カレンダー

講演会 Part

「地図・空中写真から読む沖縄の今昔」

10月5日(木)午後6時30分～午後8時
 場所：沖縄県公文書館講堂 入場無料

国土地理院沖縄支所から講師をお招きして、地図や空中写真にみられる沖縄の変遷を読み解きます。

休館日のお知らせ

8月	毎週月曜日
9月	毎週月曜日、19日(火)、23日(土)、展示室は5日(火)から10日(日)まで、展示入れ替えのため閉室
10月	毎週月曜日、10日(火)
11月	毎週月曜日、3日(金)、23日(木)
12月	毎週月曜日、23日(土)、28日(木)～31日(日)
平成19年1月	毎週月曜日、1日(月)～4日(木)、9日(火)
平成19年2月	毎週月曜日、11日(日)
平成19年3月	毎週月曜日、21日(水)

利用案内

入館無料

開館時間 / 午前9時から午後5時まで
 (閲覧請求は4時半で締め切りますので、ご注意下さい)

バスをご利用の方は

那覇バス(株).....1番線 バス停「県立医療センター」下車5分
 東陽バス(株).....91番線 バス停「新川」下車1分



閲覧室のご利用にあたって

- ・ 書庫内にある資料を閲覧申請する際には「利用証」が必要です。「利用証」の発行にあたっては、住所などの確認ができる身分証明書(運転免許証や学生証等)の提示をお願いします。参考資料室の資料を利用する際には閲覧申請の必要はありません。
- ・ 閲覧室での筆記用具は鉛筆をご使用ください。鉛筆やメモ用紙等は閲覧室に用意してあります。
- ・ 原則として資料の館外貸出は行っていません。閲覧及び複写でご利用ください(複写は実費を頂きます)。
- ・ 鞆等の所持品はロッカー(無料)にお預けください。

七月(三日)木、講師に井上秀夫氏(前沖縄県立芸術大学教授)をお招きして講演会を開催しました。当日は、台風四号の余波で、強い横なぐりの大雨が降る悪天候の中、多数の歴史ファンが参加しました。後に国王となる金丸尚円(尚泰久王)に仕えていました。尚泰久王時代は、舟を操って世界の架け橋となり、国中に諸外国の至宝が満ち溢れている」と表現する等、繁栄を謳歌していました。尚円について、講師は、「一四五九年に、御物城御鎖之側(オモノグスコサシノソバ)という国王の側近中の側近となり、国際都市那覇と、中国への朝貢貿易の担い手である久米村の行政権を



把握し、その後の王位奪取の布石となった。」と指摘されました。一四一五年農民の子として伊是名村に生まれ、波乱の人生をおくり、国王となった尚円について、時折ユーモアを交えて、講演して頂き、大雨の中帰路につく足取りも軽やかなものとなりました。

平成十八年度 沖縄県公文書館講演会
 「琉球王国大航海時代のキーマンとその周辺」

尚円を中心に「」を開催



「所蔵資料目録」のタブをクリックして検索画面を開いてください。ガイド付きの検索画面を選ぶと、公文書館所蔵資料が階層表示され、資料群を絞って検索できます。特に資料群を限定せずに調べたいときは、ガイドのない画面で検索してください。

閲覧したい資料の十桁の資料コードをメモしてから来館すると、閲覧申請がスムーズです。

公文書資料の閲覧の際は、資料に含まれる個人情報を利用制限審査のために、利用者のみなさまにお待ちいただくことがあります。あらかじめご了承ください。

沖縄県公文書館HP「なっとOPA」で、
 収蔵資料を検索してみましよう



所蔵資料の検索画面

URL <http://www.archives.pref.okinawa.jp>